
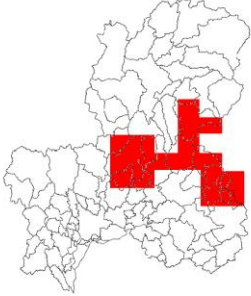


オオナンバンギセル	<i>Aeginetia sinensis</i> G.Beck	絶滅危惧Ⅱ類
		ハマウツボ科
選定理由	既知の生育地で生育の条件が明らかに悪化しており、個体数が大幅に減少している。	写真(箕浦博之) 
形態の特徴	1年草。茎はごく短く、ほとんど地上に出ない。数枚の鱗片状の葉が互生する。花期は7-9月。葉腋から20-30cmほどの長い花柄を出し、横向きに筒状花をつける。花冠は鮮紅紫色で長さ4-6cm。	
生態的特徴	山地の草原に生える寄生植物。ヒカゲスゲやヒメノガリヤスの根に寄生する。	
分布状況	本州～九州、中国(中部)に分布する。県内では県北の南東部及び県南の北部・北東部に生育する。	
減少要因	本種の分布域は県北及び県南の狭い地域に限定されており、もともと生育個体数も少ない。また、その再生産能力を上回る採取圧に曝されている。	
保全対策	生育地を公表する必要がある場合は、生育場所を特定することのないような配慮が必要である。また、生育地の保全に配慮が望まれる。	
特記事項		
参考文献	佐竹義輔ほか編「日本の野生植物 草本Ⅲ」平凡社(1982)	

文責:佐藤和良